



校長
本山 早苗 先生

森上 卒業生の柚木麻子さんが書かれた、『らんたん』を読ませていただきました。印象的だったのは、河井先生を支え続けた「色ゆり先生との関係を示す『シスターフッド』という言葉です。女性の友情と訳さずに、あえて使った表現だと思うのですが、この言葉は貴校にとつてのキーワードとなる言葉だと思います。

本山 その原点には、河井先生がアメリカに留学した時に触れたYWCAの活動があります。若い女性たちが連携し、「自分の賜物を活かして活躍しよう」という思いで行動する姿に直接触れたことが、後の「色ゆり」のシスターフッドにつながっているのでしょう。

森上 一色先生との関係もそうですが、新渡戸稲造や津田梅子など当時の著名な国際人が次々と登場し、人に恵まれた方ですね。

本山 その通りです。YWCAの世界大会などに参加したことをきっかけに、多くの優れた人物と出会い、それが本校の創立のきっかけになりました。第一次世界大戦後、敵国だった女性代表たちが「平和な世界をつくるために力を合わせよう」と誓い合う場に立ち会い、「女性の力で平和な世界に変えていくためには、少女時代からの教育が必要だ」と考えるようになったのです。その後、日本は第二次世界大戦に向かっってきた臭くなっていくのですが、何とか戦争を阻止したいという強い気持ちが学園創立につながりました。今も、源泉となる当時の使命をひしひしと感じています。

森上 食す楽しみに至るまでにみんなで協力するという体験もできますし、そこから身につく行動力は現代を生きる上で有効ですね。特に都会育ちのお子



園芸は「こころ」を耕す時間でもある

森上 貴校は「英語の恵泉」と言われ、国際教育にも力を入れています。国際的にどのような人物を育てたいと考えているのでしょうか？

本山 よく言われるグローバルリーダーを育てるというよりも、平和をつくり出すひと、つまり「ピースメーカー」を育てたいと考えています。世界に友好を広げ、「お友だちがいる国と争いたくないよね」というところが第一歩です。そのための国際交流も、アメリカの教会コミュニティやオーストラリアのミッションスクールに行くことからスタートして30年以上になります。ただ、今は経済的にも伸びゆくアジアを体感し協働できるようなマインドを育てたいと考え、3年前からシンガポールでの交流プログラムを始め、次はマレーシアに広げたいと考えています。

森上 創立者が国際人として活躍されたわけですが、今の生徒さんの志向はいかがですか？

本山 生徒だけでなく、国際交流に強い関心をもつご家庭が多いです。「Global Studies Program」という海外からの留学生をリーダーとする5日間英語漬けのプログラムを行っています。今年校内では最も参加者が多い学校と言われました。中学3年生から参加する生徒が多く、そこの体験を経て、「もっと英語を勉強しよう」「高校で留学しよう」などの動機づけになっています。

森上 留学に行くだけでなく、受け入れにも積極的です。

本山 オーストラリアの提携校の高校生を迎える際、家庭にホストファミリーをお願いしています。今春は、以前勤務していた先生とのご縁で、アメリカのイリノイ州立大学附属高校から男子生徒も含めて20名ほど受け入れました。ホームステイは受け入れ先



森上教育研究所 代表 森上 展安 氏
早稲田大学法学部卒業後、進学塾塾長などを経て、1988年に私立中・高や進学塾を対象とするコンサルティング・森上教育研究所を設立。ほぼ毎週、中学受験の保護者を対象に、著名講師陣による「わが子が伸びる親の“技”」(oya-skill.com)と冠したセミナーや動画を提供している。

森上 個性が尊重され、自然と仲間になりたくなるような環境です。

松井 それには、毎朝行う礼拝での「感話」が影響しています。自由なテーマで原稿を書き、みんなの前で述べます。生徒だけでなく教員も話をします。「話す」ことに意味があるようですが、実は人の話を傾聴することにも意味があります。ふだんの生活では、聞きたくない話は聞かずに取捨選択することができません。しかし、感話では、反論があっても最後まで耳を傾けなければならないので、自分との違いを知るきっかけになります。

本山 中1はクラス礼拝から始まり、中3になると中学礼拝で、高2・高3は高校礼拝で3学年を前に語ることがあります。先輩や同級生の話を繰り返し聴くことで、今後、自分はどう生きたいのかを考えるようにもなります。また、いろいろな人の考え方に触れることで、多様な価値観への理解が求められる「国際」にもつながっていきます。異なる考えを受け止めることで、多様な人々を受容し、共に生きることにつながっているのです。中には告白的で深刻な内容もありますが、これはみんなが真剣に聴いて受け止めてくれるという信頼感があるからこそ語れることです。この感話の文化が、恵泉の生徒たちの思考の原点として大きく影響しています。

森上 貴校では、成績の順位を公表していないそうですが、人と比べず、その人自身を見ようということを大事にされていますね。「らんたん」では、「色ゆりのコンプレックスだった巻き毛を河井先生が褒める描写がありました。まず他者を認めることを人との関わりの第一歩とする精神が恵泉の根底にあるのだということが、今日のお話でよくわかりました。

本山 「らんたん」からゆずり受けた光で、自分の周囲を輝かせる人になってほしいという願いは、創立からずっと変わらず恵泉が大切にしてきたもののなです。

人に恵まれた創立者・河井道が
恵泉に遺したもの

森上 卒業生の柚木麻子さんが書かれた、『らんたん』を読ませていただきました。印象的だったのは、河井先生を支え続けた「色ゆり先生との関係を示す『シスターフッド』という言葉です。女性の友情と訳さずに、あえて使った表現だと思うのですが、この言葉は貴校にとつてのキーワードとなる言葉だと思います。

本山 その原点には、河井先生がアメリカに留学した時に触れたYWCAの活動があります。若い女性たちが連携し、「自分の賜物を活かして活躍しよう」という思いで行動する姿に直接触れたことが、後の「色ゆり」のシスターフッドにつながっているのでしょう。

森上 一色先生との関係もそうですが、新渡戸稲造や津田梅子など当時の著名な国際人が次々と登場し、人に恵まれた方ですね。

本山 その通りです。YWCAの世界大会などに参加したことをきっかけに、多くの優れた人物と出会い、それが本校の創立のきっかけになりました。第一次世界大戦後、敵国だった女性代表たちが「平和な世界をつくるために力を合わせよう」と誓い合う場に立ち会い、「女性の力で平和な世界に変えていくためには、少女時代からの教育が必要だ」と考えるようになったのです。その後、日本は第二次世界大戦に向かっってきた臭くなっていくのですが、何とか戦争を阻止したいという強い気持ちが学園創立につながりました。今も、源泉となる当時の使命をひしひしと感じています。

社会を生き抜く力となる
非認知能力を育てる伝統の「園芸」

森上 女子教育に託された平和への思いを中心に据えながら、やはり恵泉女学園といえば「園芸」の授業も伝統的です。

本山 本校は「聖書」「国際」「園芸」を3本柱としていますが、ベースにはやはり「聖書」があり、「キリスト教信仰」があります。神に愛されている者として「自分を大切にしないさい」という教えを基に、「自分と同じように人を大切にしないさい」という教えが「国際」につながり、「命をいただいて生かされている」という教えが「園芸」につながっています。

森上 「園芸」を教育に取り入れることは、現代社会においてどのような意味をもっているのでしょうか。

松井 ふだん「命の尊さを知り、感謝する心と生きる力を養う」と伝えていますが、学外の方に、園芸によって非認知能力が備わると言われたことがあります。非認知能力は、経験からしか身につけません。これは本校の生徒の素直なところなのですが、一度でも経験したことは「できる」と思うようになります。たとえば、園芸では運搬用の一輪車を使用します。といっても、年に1〜2回程度です。ある時、被災地で、60キロほどの大量のワカメを一輪車に乗せて運ぶお手伝いがありました。重くて扱いが難しいので、漁師の方は「無理だ」と言うのですが、生徒たちは「できます」と言います。似ている作業を経験していれば、「応用してできるはず」と一歩を踏み出し、次にどうしたらうまくできるかを考え、工夫して進めることができるからです。また、一生懸命やったからといってたくさん収穫できるわけはありません。逆にほたらかしでもたくさん採れることもあります。どの作業も段取りは必要で、体を動かしながら「こうした方が楽だな」、収穫できなくても「こんな時もあるんだな」など体験から学ぶことはたくさんあります。重労働ではありませんが、最後に収穫した野菜を料理して味わう楽しみもあるので、生徒たちは続けられるのだと思います。

森上 食す楽しみに至るまでにみんなで協力するという体験もできますし、そこから身につく行動力は現代を生きる上で有効ですね。特に都会育ちのお子

さんにとっては、得難い経験だと思います。

本山 自分で育てた野菜は格別な美味しさですから。園芸は、中1と高2で必修なのですが、受験を迎える高2生徒にとって、癒やしの時間にもなっているようです。

松井 教員にとつても、生徒が抱えているものに気づきやすいという側面があります。作業中にはみんなよくおしゃべりをするので、一人ひとりの考え方をすることもできます。

本山 ジャムやポプリ、ケチャップを作るなど楽しいこともたくさんありますし、近くの商店街に、育てた苗を配ったりもします。すると、近所の方とコミュニケーションをとってきて、お菓子をいただいで帰ってくることもあります。

松井 園芸は人を笑顔にさせると河井先生もわかっていました。恵泉ではいろいろな植物を日本に初めて紹介してきた実績があるので、商売つぎが、商売つぎが、特許などを取らずに欲しい人にどんなあけてしまったのです。それは生徒たちにも引き継が

れ、学校説明会に来た方に、自主的にバジルの苗を配っていたのには驚かされました。

本山 自分たちが育てたものを持ち帰ってもらい、大事にしてもらえるのが嬉しいでしょう。農業は生産性を追求するものですが、園芸は命をいただいていることに感謝し、生活を豊かにするものなのです。

「国際交流」や「感話」がもたらす
多様性を受け入れる心

森上 貴校は「英語の恵泉」と言われ、国際教育にも力を入れています。国際的にどのような人物を育てたいと考えているのでしょうか？

本山 よく言われるグローバルリーダーを育てるというよりも、平和をつくり出すひと、つまり「ピースメーカー」を育てたいと考えています。世界に友好を広げ、「お友だちがいる国と争いたくないよね」というところが第一歩です。そのための国際交流も、アメリカの教会コミュニティやオーストラリアのミッションスクールに行くことからスタートして30年以上になります。ただ、今は経済的にも伸びゆくアジアを体感し協働できるようなマインドを育てたいと考え、3年前からシンガポールでの交流プログラムを始め、次はマレーシアに広げたいと考えています。

森上 創立者が国際人として活躍されたわけですが、今の生徒さんの志向はいかがですか？

本山 生徒だけでなく、国際交流に強い関心をもつご家庭が多いです。「Global Studies Program」という海外からの留学生をリーダーとする5日間英語漬けのプログラムを行っています。今年校内では最も参加者が多い学校と言われました。中学3年生から参加する生徒が多く、そこの体験を経て、「もっと英語を勉強しよう」「高校で留学しよう」などの動機づけになっています。

森上 留学に行くだけでなく、受け入れにも積極的です。

本山 オーストラリアの提携校の高校生を迎える際、家庭にホストファミリーをお願いしています。今春は、以前勤務していた先生とのご縁で、アメリカのイリノイ州立大学附属高校から男子生徒も含めて20名ほど受け入れました。ホームステイは受け入れ先

を見つけるのが難しいと言われますが、本校ではすぐに枠が埋まります。海外に友達ができるってこんなに楽しんだという経験が、国際人としてのスタートになります。

森上 教育のいろいろな場面で「経験すること」が重視されていることがわかります。それにしても、河井先生という国際人たる女性のロールモデルがあるのはとてもいいですね。

本山 河井先生は、性別による役割でなく、自分ができることを精一杯やりきるというスタイルでしたが、その精神は今も受け継がれているものの一つです。

森上 個性が尊重され、自然と仲間になりたくなるような環境です。

松井 それには、毎朝行う礼拝での「感話」が影響しています。自由なテーマで原稿を書き、みんなの前で述べます。生徒だけでなく教員も話をします。「話す」ことに意味があるようですが、実は人の話を傾聴することにも意味があります。ふだんの生活では、聞きたくない話は聞かずに取捨選択することができません。しかし、感話では、反論があっても最後まで耳を傾けなければならないので、自分との違いを知るきっかけになります。

本山 中1はクラス礼拝から始まり、中3になると中学礼拝で、高2・高3は高校礼拝で3学年を前に語ることがあります。先輩や同級生の話を繰り返し聴くことで、今後、自分はどう生きたいのかを考えるようにもなります。また、いろいろな人の考え方に触れることで、多様な価値観への理解が求められる「国際」にもつながっていきます。異なる考えを受け止めることで、多様な人々を受容し、共に生きることにつながっているのです。中には告白的で深刻な内容もありますが、これはみんなが真剣に聴いて受け止めてくれるという信頼感があるからこそ語れることです。この感話の文化が、恵泉の生徒たちの思考の原点として大きく影響しています。

森上 貴校では、成績の順位を公表していないそうですが、人と比べず、その人自身を見ようということを大事にされていますね。「らんたん」では、「色ゆりのコンプレックスだった巻き毛を河井先生が褒める描写がありました。まず他者を認めることを人との関わりの第一歩とする精神が恵泉の根底にあるのだということが、今日のお話でよくわかりました。

本山 「らんたん」からゆずり受けた光で、自分の周囲を輝かせる人になってほしいという願いは、創立からずっと変わらず恵泉が大切にしてきたもののなです。



礼拝で「感話」を述べる生徒

シスターフッドの絆のもとに平和を尊ぶ国際人を育成 主体性・国際性・協働する力をもって 世界に羽ばたくピースメーカーであれ

2029年に創立100周年を迎える恵泉女学園中学・高等学校。「聖書」「国際」「園芸」という創立以来の教育基盤を大切に受け継ぐ一方で、STEAMやICTなど先進的な教育を行い、高い学力と知的探究心を培っている。国際人として活躍した創立者・河井道の物語『らんたん』を軸に、同校のもつ豊かな源流について、本山早苗校長と松井信行副校長、そして森上教育研究所の森上展安代表の3人に語り合っていた。



恵泉女学園中学校

〒156-8520 東京都世田谷区船橋5-8-1 TEL.03-3303-2115
アクセス ●小田急線「経堂駅」徒歩12分 ●小田急線「千歳船橋駅」徒歩12分

学校説明会・公開行事情報(すべて要予約)

- ◆学校説明会 10月11日(土)、12月6日(土)
- ◆授業見学会 9月24日(水)
- ◆恵泉デー(文化祭) 11月3日(月・祝)
- ◆入試説明会(小6対象) 11月24日(月・振休)、1月8日(木)
- ◆クリスマス礼拝 12月19日(金)※終了後、ミニ説明会あり

※日程は変更になる場合があります。学校のホームページで最新情報をご確認ください。



www.keisen.jp/